

腎臓内科のご紹介

腎臓病ってどんな病気？

腎臓病とは腎臓の構成要素である糸球体や尿細管の異常から引き起こされる糸球体腎炎、尿細管間質性腎炎、糖尿病性腎症、腎硬化症などの疾患を言います。ネフローゼという病名を聞かれたことがあると思いますが、この疾患は尿中に蛋白が多く出てしまう病気の総称です。腎機能が低下しますと急性腎不全や慢性腎不全に移行します。

腎臓病を予防するにはどうすればいいの？

現在、末期腎不全の予備軍である慢性腎臓病（CKD）と診断される方がとて多くなっています。腎臓は機能が一度低下してしまうと回復することが難しい臓器です。また、自覚症状がでにくいいため早期に発見ができない場合もあります。末期の腎不全に至らないようにするためには、定期的に健康診断を受け、蛋白尿や血液中のクレアチニンの高値を指摘された際には腎臓内科を受診して、治療を開始する必要があります。近年、糖尿病から腎不全に至り透析療法が必要となる人が増加しています。腎機能を悪化させないためにも糖尿病は症状が進行しないように血糖コントロールが重要です。また、血圧管理も重要です。



天領じんぞう教室

腎臓病の予防、治療：当院での取り組み！

当院では腎臓病予防のために、定期的に「天領じんぞう教室」を開催しています。「天領じんぞう教室」では医師やコメディカルからのお話のほか、腎臓病食を食べていただきながら食事指導なども行っています。腎臓病を患っている方やそのご親族の方、また腎臓病に対して不安に思われている方など是非ご参加ください。また、当院では透析施設も併設されており、血液透析や腹膜透析を行っています。末期腎不全の患者さんは透析治療が必要となります。患者様には入院していただきシャント手術（血液透析に必要な血管の作成）や PD チューブ挿入（腹膜透析用のカテーテルの腹部への挿入）を行い、充実した透析指導のもと、安心して安全な透析導入を致します。



透析室



腎臓内科部長
今西 研



腎臓内科医長
松岡 竜太郎